令和８年度　第３回まちづくりミーティング

令和８年８月29日（土）14時00分～
教育プラザ富樫２階　121・122研修室
三馬、米泉、富樫、伏見台校下（地区）

(1)市長あいさつ

【村山市長】

土曜日のお休みのところ、そして雨の中で足元の悪い中お集まりいただきましてありがとうございます。

このまちづくりミーティングは、４年間で全ての校下（地区）を回り、様々な地区での課題を共有して、そして行政と地域とでお互いに課題を持ち合いながら、その課題に対しての解決策につながっていくよう様々なアイデアを持ち合っていこう、そのような趣旨で開催させていただいております。

さて、本日の課題にもございますけれども、能登半島地震発災から２年８か月が経とうとしています。この間、金沢市でも地域防災計画を二度にわたって見直し、避難所の再配置の検討、あるいは備蓄品の確保などを行ってきております。

また、先月には熊本地震が発災しました。熊本地震の発災に対しては、人的な派遣、支援物資の派遣、中でもトイレカーの派遣ということを行いました。避難が長期化していくに当たって、なるべくトイレを使いたくないから食べ物を食べない、飲み物を飲まない、そういうことによって健康被害が出てきてしまう、そうしたことを防ぐためにトイレカーの設置が重要であるということで進めてきたわけですけれども、先月トイレカーが納車されましたので、その１週間後発災した熊本地震に対して派遣をさせていただきました。

派遣をしていくことで、例えば水道、井戸が通じていないと派遣が難しいとか、あるいは排泄物のくみ取りはしっかりオペレーションがなければいけない、そういったことも勉強させていただきながら、今後金沢で地震が起きてしまった際の活動についても検討することができたと思っています。

一方、今月に入ってから千葉で大きな水害がありました。羽咋や宝達志水町、氷見では大きな水害がありましたけれども、金沢市内では金沢港のほうで少し浸水被害がありました。ただ、浸水が心配されたその他の地区では被害が少なかったということです。

そうした中、やはり様々な災害に対して備えていくことが重要であるということを改めて認識したところであります。この経験を踏まえて、今後さらに強靭化した災害対策行っていきたいと思っています。

本日は限られた時間ではございますけれども、この４校下(地区)にとって非常に有意義な意見交換となることを期待して、私からご挨拶をさせていただきます。

⑵地域代表あいさつ

【三馬校下町会連合会長】

私は、地域力を高めるというのは、自分の校下だけの問題だけではなくて、やはり同志を増やす、近辺のいろいろな校下の方たちと顔見知りになり、お互いにものを言い、討議し、そして一つの金沢というものの課題を見つけていくというのが最善のことだと思っています。だから今日、皆さんと会うとうれしくてうれしくて、というのが私のモットーです。

金沢方式というのは賛否両論あるかもしれないけれども、私たちが補助金とかいろんな問題を抱えながらでも、自分たちが自治体からの命令だけで動くという一般的な自治体の方式ではなくて、こうやって私たちが訴える力を認めてくださるのがこの金沢方式のいいところです。

それを私も長年やってきてちゃんと感じております。市と一緒に対等にこうやって意見を述べられる場を設けていただくということは、私たちがいっぱいチャンスをもらって、どんどん活動できるようにしてくださると思っていますので、これがいい、あれが悪いではなくて、みんなでこれから仲よく、全てに向かって地域力を高めていきたいと思います。

⑶地域課題の説明、課題に対する市の方針等の説明、

①１．空き地・空き家の地域活動の連携

２．掲示板の設置について（三馬校下）

「地域の課題の説明」、「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【三馬校下町会連合会】

まず１つ目は空き地・空き家の地域活動の連携について。どこの校下も同じ悩みだと思

うんですけれども、地域内にある空き家などの現状を金沢市と連携して調査し、それらを集会場や町会の会議室として有効活用できれば、地域住民の活動が円滑になり、非常に大きな助けとなるんです。

これに関してはいろいろな問題があり、もちろん行政の中でもいろいろスタートしていただいていますけれども、やはり問題が解決していかないものですから、金沢市に調査をお願いして、例えば公民館しか集まれない、時間制限があるというよりも、ちょっとしたことで集まって情報交換をしたい。本当に基本的な考えで、まず一つ申し上げます。

２番目は、校下の中での課題や問題点も多く話し合っていますが、アナログですけれども掲示板の問題。町会の加入者を増やすという課題は並行していきます。いろいろな国の方も働き手としていらっしゃいますし、やっぱりそんな意味での相互理解を含め、金沢市は英語版もないですし案内もない。どこへ逃げればいいという矢印もない。いろんなところへ行くとすぐ掲示板が目につくんですけれども、それが地方都市は少なくて、かえって東京の港区なんかは結構ある。大きな掲示板で、すっきりした形で矢印が書いてあればそこへ避難すればいい。回覧板では見落としているけれども、みんなにこれ大事ですよということを、英語版を含めて掲示をするということをすると、地域社会に住んでいる以上は住民みんなが均等な権利を得られて知ることができるんです。

本当にアナログなことですけれども、そうするには地域として結構負担があって、金額的にもちょっときついというところもあります。古くなっている掲示板もあります。設置場所の検討も要ります。

だから、具体的な設置について、今後、市との協議は可能ですかというこの２点を伺いたい。どうぞよろしくお願いいたします。

【高木都市整備局長】

人口が減少して、土地、建物の所有者の高齢化が進む状況にあり、空き家対策ということが全国的な課題になっています。そういう中で、この空き家の活用という観点でご意見、ご提案をいただき、大変ありがたく思います。

本市では、これまでも空き家のお隣の方、あるいは町会長さんなどから空き家に関するお問合せや苦情を受けた場合に、建物の劣化や草木の繁茂をはじめとして、保安面、衛生面、景観面など様々な観点から調査確認した状況を庁内の関係部局と共有をしながら、建物所有者に対して改善に向けた指導や助言を行っています。その取組の中で、空き家の活

用に関して地域のご意向があれば、そのことを建物所有者にお伝えすることは十分できると思います。

昨年度１年間で、相談対応の総件数が252件ございました。その中で、家屋の損壊に関すること、ごみ、草木の繁茂に関すること、そして解体などの補助制度に関すること、こういったことが大半を占めていましたが、空き家の利活用に関する問合せも幾つかありました。こうした相談のタイミングをきっかけとして、地域のご意向とマッチングさせるということは可能性として十分あり得ることだというふうに思っています。

その上で、あくまでも所有者の方が同意されるということが前提になりますが、空き家を集会所や町会の会議室などに活用する場合については、町会あるいは地域団体、所有者、そして市、この三者が協定を締結すると、改修費用の３分の２を限度額100万円として町会、地域団体に補助するという制度がございます。

これまでにその補助制度を使った実績というのが２件。町会が集会所や会議室として改修したという事例ではありませんが、ＮＰＯ団体が地域との交流を図るためにコワーキングスペースですとかシェアキッチン、そして創作活動の場として改修したという事例がございます。

まずは具体的に空き家と思われる場所を教えていただいて、補助制度の活用のことも含めてご相談をさせていただければと考えております。

【南市民局長】

住民の皆さんに参画していただいて、地域コミュニティを充実させていくためには、情報の共有が非常に大事だと考えています。

本市としても、そのための支援制度は準備させていただいておりまして、まず町会での掲示板の設置につきましては、市民協働推進課でコミュニティ活動推進用具購入費等補助という制度があり、10万円以上の設置費に対して４分の３の補助率で、限度額25万円までの支援を行っています。校下内での掲示板の設置が必要であれば、台数や設置場所などを確定していただいた上で申請してもらうことになります。

当然、設置場所の問題はあります。民地以外ということであれば、公園や道路敷地などで管轄する部署も変わります。ご相談に応じて、それぞれの担当部署との協議調整には市民協働推進課で取り次いでいきたいと思います。

また、掲示板以外の方法ということも考えられます。迅速かつ広域な情報共有を実現す

るという点では、今やはりデジタルツールというものが大事だと思っております。現在、「結ネット」といったアプリの活用も市内で進めていますので、そういった活用もご検討いただければと思います。

「結ネット」は電子回覧板としての機能に加えて、グループウエア機能による出欠の確認、そして今災害が多発しておりますので、そういった災害の際の安否確認システムとしても活用できます。システムアプリ等の導入にかかる経費については、地域コミュニティＩＣＴ活用事業費補助の対象となっています。町会の加入世帯数に応じて補助率４分の３で、最大240万円までの支援をしています。

掲示板等による従来からの情報提供、それから「結ネット」を併用するということで、より効果的な情報共有が実現できると考えています。ぜひ町会単位等での導入についてご検討いただければ幸いです。

（追加質問・意見①）

【富樫校下町会連合会】

先日の大雨の際に「結ネット」からいろいろな情報が届いて便利だったんですが、サーバーの問題だと思うんですけど、逆にアクセスしづらい、ものすごく接続が悪いという問題がありました。実際に災害が起きた際に「結ネット」で情報が受け取れるかという部分が若干心配になりまして、ちょうど今そういう話が出ましたので質問させていただきます。

【南市民局長】

おっしゃるように、災害が大きければ大きいほどアクセス数が増えて、サーバーの負荷がかかるという課題があります。

こういったご意見を頂戴しましたので、システムを運用している会社と情報共有した上で、市としても対応していきたいと思います。

【村山市長】

空き家についてはもう全国的な課題ではあるけれども、金沢市内でも大きな課題となっています。特定空き家あるいは管理不全空き家という状況になったときには、その解体等々を行っていく際の手続に入っていくことになりますが、そうなる前にどのように資産として使っていくか。これから特に空き家が増えていくおそれが高いというように捉えて

いて、というのも、何らかの事情で、突然施設に入らなければならなくなった、入院しなければならなくなったというような方々、高齢者が多い中ではそうした事例も出てくるかというふうに思います。

今、そのような空き家にならないための対策を進めていますけれども、今ほどおっしゃったような、どういったところに人が住んでいない家があるのかということ。これは今使えば資産として流通ができるものであり、財産を持っている管理者の方々とアクセスをして、その権利が得られれば有効な活用もできるということですので、各町会の中でそのような情報を入手できるようであれば、その上で活用していくということが、今後空き家を増やさないためにも大事なことかなというように思います。

もう一つ、掲示板については、「結ネット」を使っていただくこと。あと外国人もどんどん増えてきています。ただ、外国人の中では最近いろいろなツールも出てきて、一般的なスマホでも翻訳機能があるものもありますし、特に日本で生活されて日本語が分からない外国人については、そのようなものを使って情報収集をされるのかなというふうに思います。

一方で、今ほどご指摘があったような、その際にネットが通じるかということがもう一つの課題かというように思っています。特に、帰宅困難者対策の訓練を昨年11月から行いましたけれども、外国人がたくさん集まってくる際に案内をどうするんだとなると、まず外国人が自分たちで調べて、母国語でどうすればいいかということが分かるような、そういった連携体制というのを取れればと思っていますが、その際にもやはり通信が大事。特に災害時の通信の確保について、今も羽咋、宝達志水でなかなか難しいという課題がありましたけれども、この連携体制をしっかりしていくということがまず大事なのかなというふうに思っています。

②防災資機材等整備補助制度の拡充について（米泉校下）

「地域の課題の説明」、「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【米泉校下町会連合会】

今年３月に市危機管理課から新たに簡易テントや段ボールベッドの防災資機材が支給されました。有事の際は無論のこと、町内訓練やあるいは校下の一斉訓練の際において、

実際実質的に活用できるということで、防災士などから感謝の声を聞いています。

一方、当校下自主防災組織では、拠点避難場所である小学校の敷地の一部をお借りして防災倉庫を設置し、簡易ベッドや簡易間仕切り等の防災資機材を確保しているという状況です。倉庫は既に学校のものと一緒になっているので満杯となっており、今般支給された資機材を入れることができず、小学校のピロティの一角に一時的に保管させていただいております。

したがって、この対応策として、市の補助制度を活用した防災倉庫の増設を考えていますが、昨今、物価高の折、限度額30万円では地元の負担が過大となり、資機材を確保することが困難な状況です。補助限度額の引上げなどの補助制度の拡充をご検討いただければ幸いです。

加えて、小学校敷地の使用許可手続の簡素化についても検討くださるようお願いいたします。防災倉庫設置並びに配置について、小学校には積極的に協力をしていただいておりますが、今後、拠点避難場所あるいは指定避難場所に倉庫が必要になることは重々考えられます。使用許可の手続の簡素化についてご検討くださるようお願いします。

なお、この使用許可手続については、地方自治法等によって規制されていることは分かっていますが、この必要性ということについてもう少し簡素化をお願いしたいということで課題に挙げました。よろしくお願いします。

【山下危機管理監】

防災資機材のことについて、補助制度だけではなく、全般的なお話もさせていただければと思います。

防災資機材に限らず、昨今の物価高が、地域で防災活動をするときにも、大なり小なり影響が出ているという話は、私どもの耳にも入ってきています。資機材が高くなったとか、特に倉庫については設置費もかかり、その人件費がかなり高くなったというお話を聞いており、補助額がどうにかならないかという相談は、他の地区からも上がってきています。

また、この制度は１回使うと５年間使えないという制度。能登半島地震があって、昨日、今日も雨が降って、その前の年も雨があってということで、各地区で防災備蓄を進めたいけれど、４年前に制度を使ったので使えない、何とかしてくれないか、制度そのものの見直しというお話もよくあります。

こういった点については、私ども毎年予算の時期に補助額をどうするか、制度をどうす

るか、また他の市町の状況はどうかということを見ながら、逐次見直しております。今回こういうお話があったということで、予算編成の際に検討させていただければと思います。

資機材とは別に、今年６月、議会でお認めをいただいて届出避難所という制度をつくりました。ありがたいことに、市の指定する避難所とは別に地域の集会所に避難することを考えている地区がかなり増えてきていますが、大きな災害があったときに、市が設置する避難所以外に避難していると、皆さんがどこにいるか分からないので、事前に私の地区では地区の集会所で避難することがあるという届出の制度をつくりました。地元の集会所だけではなく、地域のペット病院、病院、企業の一室、こういったところをお借りして、届出避難所を準備されている地区が幾つかあります。

届出避難所とするとなると、やっぱりそこに資機材が要りますので、新たに上限20万円ですけれども、資機材の補助制度を別枠で用意をしています。いずれにしましても、避難先を体育館とか市の施設だけじゃなくて、より身近なところで開いていただくことを想定しています。こういった動き方を考えている地区、もしくはご相談があれば、危機管理課へご連絡いただければ大変ありがたい。一緒にどういうことができるか考えさせていただきたいと思います。

学校の施設を借りたいという話については、学校は教育施設ということもあって、なかなか地元だけでは進まないというお話があります。防災に関しては、手続のことよりも、まず教育委員会との交渉は危機管理課も一緒になってやらせていただいています。

最後の書類だけはどうしても地元から出していただく必要がありますが、交渉で難航している、学校の様子がよく分からないというお話がもしあるようであれば、一度危機管理課にご案内いただきたい。私どもがまず教育委員会、もしくは学校の校長先生等にご相談して、地域のニーズを伝えていく。学校の思いもあるかと思います。そこも地域にお伝えをさせていただければと思っております。

いずれにしても、自主防災会の皆さんのご意見を聞きながら進めていかないと、行政だけでは災害対応はできないのが事実です。引き続きお願いします。

また、この資機材は防災の時だけ使うわけではありません。例えば投光器ですと、地域の夏祭りで明かりが欲しいというときに使っていただいて結構です。むしろ災害になって使うのではなくて、平時からどんどん使って使い方を覚えていただきたい。

公民館か学校に、「まかないくん」というお湯を沸かしたりできる大きな鍋もあります。

災害時に初めて蓋を開けるというのではなくて、できれば平時から使っていただきたいと思います。

補助制度は毎年少しずつ時代に合わせて直しております。金額の問題、制度の問題、また購入したい資機材の問題、こういったものがありますので、何なりとまずはご相談いただいて、私どもの制度を変えていくきっかけにさせていただけると大変ありがたいと思います。

（追加質問・意見①）

【伏見台校下町会連合会】

届出避難所のお話について、６月の市町会連合会理事会で危機管理課から説明を受けています。

そのときに、せっかく手を挙げていただいた会館や民間の施設の方に３分の１の負担を強いるのはおかしいのではないかということで、一度持ち帰っていただいて、またお話しいただけると聞いていたのですが、その後特にお話がない中で、もう募集を開始して、実際に申込みがあるというのはいかがなものか。まだ校下には案内しておりませんので、その返答を市町連に説明してから募集開始してもよかったのかなと思います。

補助率３分の２、20万円限度というのは変わらないとは思いますが、３分の１を、手を挙げた会館の町会が払うのか、地区の自主防災会で払うのかというところもまだ決めかねている中で、その辺についての市の考えは特に変わってないと認識してよろしいんでしょうか。

【山下危機管理監】

届出避難所はどこに避難するかということだけですので、登録はまず費用がかかるとかかからないという考え方は持っていません。

よくあるのが、校下が広くて小学校まで避難できない、本当はもっと近くにある地域の集会所に避難したいけれど、避難所に指定されてないので使えないというお話。地域でうちの場所を使ってもらって構わないという話があるが、そこは市の指定避難所ではないので、何かあったときにどうしたらいいのかというご相談があって、届出をしていただければ市の指定避難所と同じ扱いにするという制度です。ただし、これはあくまでも地域が自主的に避難する場所なので、自主避難所という扱いにさせていただいています。

ただ、何か災害があったときに、保険などは全部市の対象になるように手続をしておりますので、まず避難所の開設についてはそれでお願いしたいと思っています。

そういったところからいきますと、届出避難所で使うものは地域の物資ということになり、今の資機材と同じ、地域で使う資機材という扱いになるので、補助率を３分の２にさせていただいています。

市町連理事会が終わった後に何人かの会長さんから、自分は理屈が落ちているんだけど、多くの会長さんは落ちてないかもしれないというお話があったので、改めて、地域で使う資機材という扱いになるので補助率がかかっているという説明をさせていただこうと思っています。

いずれにしましても、まずは地域で使える資源があったら使っていただきたい。今回の熊本を見ても、避難所まで来ていない方、地域の集会所に避難されている方が結構多くいらっしゃいます。一方で熊本はそれを把握できていない、どこに今いるか分からないということになっています。

届出避難所の話を、できれば地域で下ろしていただいて、登録に向けてご相談を進めていただけると大変ありがたいと思います。

【米泉校下町会連合会】

簡易テントだとか簡易ベッドであるとか、使い勝手のいいものをたくさん入れていただきました。大変ありがたいことなんですが、いつの間にか小学校へ入っていたという事実があります。できれば入荷の前に公民館なりに連絡をいただいて、いつ幾日、こんなところにこんなものが入るよとお知らせいただきたかったのが一つ。今年の３月で、ちょうど校長先生が代わられる時期だったのです。

それから、この資材を使うために小学校のピロティの一角をお借りしています。ピロティというところは、子供たちが一生懸命遊ぶ場所。その場所の一角を資機材で埋め尽くしていかがなものかと。でも今はごめんなさいと言いながら置かせていただいている状態です。

このために、防災倉庫をやっぱり一つ建てなきゃならないという話もしていますので、補助制度のことであったり、はたまた補助金のことであったり、ご検討いただかなければいけないことがたくさんあります。

地域の防災士、自主防災組織も一生懸命頑張っています。これからも防災について学ん

だり、どうすればいいかということを考えたりしておりますので、その点、またご検討いただけますようよろしくお願いいたします。

【山下危機管理監】

今年４月に町会連合会には毎回ご案内が行っていました。ただ、防災士会の会長さんと町会の会長さんは違うところもいっぱいありますので、それはやっぱりおかしいんじゃないかと春の町会連合会総会でお話があって、今は三者、自主防の会長さんと防災士会の会長さんと町会連合会の会長さん、三者連名にして公民館にご案内をして、この三者にお伝えいただくよう制度を変えてございます。今言ったようなことが今後起きないように対応をしっかりさせていただきたいと思います。

補助金につきましては、毎年年の予算のときに必ず検討しなければいけない項目でございます。

また、置く場所についても、学校とどこがいいのかということは毎回打合せをしています。今回このお話があって、私も現地を見せていただいて、ピロティに置いているところも確認していて、今校長先生とどこか置ける場所がないかということも含めて、教育施設の機能が損なわれない場所を何とかできないかと協議しております。またお返事ができる時期になり、動かすとなればご案内させていただきたいと思います。

【村山市長】

毎年、やはり災害の種類も違ったものが大きく出てきますし、ものによっては地震用のものと治水・水害用のものというのは大きく違う部分もありますから、そうした中で５年間使えないというのが本当にいいのかどうかというところは確かにあると思います。

現状の制度も含めて、そしてその金額も含めての見直しが必要かというふうに思いますので、また次年度の予算の中で検討させていただきたいと思います。

③教育プラザ移転後の利用計画について（富樫校下）

「地域の課題の説明」、「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【富樫校下町会連合会】

教育プラザは、金沢子ども条例に基づき、教育と福祉が連携を図り、乳幼児から中学生まで、子供たちの健全な育成を一貫して推進するための拠点施設として、旧ＮＴＴ研修センターを改修して、平成15年７月に開館されました。相談や研修、地域教育を核とする多彩なサービス、学校教育センター、青少年健全育成センター、子ども相談センター、乳児の教育センターなどがこの建物に入っています。

子供の健全な教育を多方面から支援、推進してまいりました。私の子も小学校のとき毎日ここにお邪魔させていただき、名前を覚えてくれるまでに利用させていただきました。

その教育プラザが、今度、三馬小学校跡に移転する計画が発表されましたが、現教育プラザの建物敷地は今後どのような形で利用する計画があるのかお聞きしたい。

また、隣接する旧市営プール跡地も、当初は武道館構想もあったが、現在、広大な臨時駐車場になっていて、明確な利用目的がないままになっています。教育プラザは体育館もあり、市営陸上競技場やグラウンドも隣接する。もっと有効にグラウンドと建物を連携して敷地を有効活用できないでしょうか。

昨今、住民間の交流が少なくなってきている中、多世代で市民が集まれる広場的な場所がなく、このまま教育プラザがなくなれば、さらに人が集う場所がなくなり、南部ブロックの活性化につながらない。定住支援や地域の活性化と持続可能なまちづくりを目指してほしいと思っています。

例えば、複数ある建物をそのまま拠点として残し、活用できないでしょうか。市内の廃校となった小学校が、住民の交流施設として活用される協議をしているという新聞記事も見ます。例えば、大学の研究施設が入ったり、一部建物を地域の公民館や児童館で利用したりできないでしょうか。

まちづくりミーティングで小立野から公民館を避難所としてほしいという要望があるほど、能登半島地震以降、公民館の重要性が見直されています。もし大桑の防災基地のような施設として、平時は公園、災害時は防災拠点とすることができれば、より多くの教育文化の避難場所にもなる。グラウンドや駐車場もあることから、備蓄品などを保管したり、公園の水場を貯水槽として災害時に利用したりできないでしょうか。

【本島都市政策局長】

今日お集まりの４つの地区は、小学校が統合、閉校になっていませんけれども、他の地区では、小学校の統合、閉校に伴うその跡地などの利活用について、それぞれの立地特性

を踏まえつつ、また市政を取り巻く環境の変化、それから本市のまちづくり全体を勘案しながら、まずは庁内の横断プロジェクトチームで利活用方針を検討した上で取組を進めています。

具体的には、旧宮野保育所では「こどもアート工房みたに」が今年５月にオープンし、旧東浅川小学校では10月に「金沢もりづくりベース東浅川」としてオープンする予定です。

また、旧馬場小学校跡地は不登校児童、それから生徒の増加の課題に対応すべく、学びの多様化学校、いわゆる不登校特例校として活用することとして、令和10年度中の開校に向け、今改修工事等を進めています。

それから、旧新堅町小学校跡地は、多様な人々が地域とつながり、学びと共創する地域力創造拠点施設として、現在基本計画の策定に向けて取り組んでおります。

この教育プラザ富樫ですけれども、先ほどお話がありましたように、ＮＴＴの研修施設を平成14年に市が取得、平成15年７月にオープンし、それから23年が経ちました。子供を取り巻く環境というのは23年でかなり変わっており、相談を含めて多様化、複雑化しています。

実はこの建物も含めてですけれども、ＮＴＴの研修施設の時代からですと、建物は50年、60年を超えています。やはり老朽化が課題ということで、今あります三馬小学校が移転した跡地に、子育て支援機能を強化し、また多世代交流機能を付加したものを、新たに「こども未来拠点施設」として整備することとしております。

この教育プラザ富樫が三馬小学校跡地に移転した後ですけれども、この移転スケジュールを勘案しつつ、本市のまちづくり全体、また南部地区周辺を取り巻く環境の変化も踏まえながら、適切な時期に、まずは先ほど言いました庁内横断プロジクトチームでしっかり検討していきたいと考えております。

【村山市長】

今、三馬小学校について、日本郵便有松社宅跡地で建てていて、それが建った後、三馬小学校の跡地のところの利活用の検討を「こども未来拠点施設」整備として基本構想を今策定しているところです。それが建つのはいつかというと、三馬小学校が建った後に三馬小学校を解体して、解体したところにこども未来拠点施設が建って、そのこども未来拠点施設が建つまでの間はこの教育プラザ富樫は使い続けるということになりますので、その後ということになります。

もちろんインターバルが開かないよう、なるべく早く施設が建っていくようにスケジュールを進めることになりますけれども、そのような形になるので、この跡地については今から結構先のことなっていくかと思います。つまり、今から８年から10年経ってという流れになっていきます。

施設については、建物の中で建築年代違うところもあり、どうしても築50年から60年を超えているところもある中で、こども未来拠点施設が建つまでは使うとなると、やっぱり70年ぐらいにまでなってしまう。そうすると、いくら耐震化をしてもどうしても建て直さなければいけないことになっていくので、現状のままで使うというのはなかなか難しい。これも基本構想の中でまたつくっていくことになりますけれども、そこからまた２、30年使うとなると、一般的には非常に厳しいかなと思っています。

ただ、その時代に何が必要かというところは、今から決めてしまうのではなくて、もう少し時代を置いてじっくり考えていく必要があると思っています。

そうした中で、金沢市営プールの跡地などについても検討していく必要はあるだろうと思いますし、近隣の施設の老朽化なども踏まえた中で、その頃、10年後近くになって何が起きているかということを、そのときに求められることを検討していくという段階になっていきます。

未来のことなので、何をするぞと今私が言えればいいんですけれども、空約束をして、そのときの事情に合わないものになってもいけませんので、もう少し時間をいただきたいと思います。

ただ、その際には、地域の方といろいろお話をしながら、こんな施設というような機会を設けさせていただくことに絶対なります。その際までいろいろ互いにアイデアを温めていくことができればと思っています。

④１．伏見台商店街と町会連合会の連携による地域活性化について

２．地域防災力の向上と災害に強いまちづくりについて（伏見台校下）

「地域の課題の説明」、「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【伏見台校下町会連合会】

まず１つ目が、「伏見台商店街と町会連合会の連携による地域活性化について」です。

伏見台校下では高齢化やライフスタイルの変化により、地域住民同士のつながりが希薄化しています。また商店街においても、利用者の減少や担い手不足が課題となっています。

校下としまして、伏見台商店街と伏見台校下連合会が連携し、地域のにぎわいとコミュニティの維持発展に向けて、行政とどのような協力が可能か協議したいと考えます。

２つ目として、「地域防災力の向上と災害に強いまちづくりについて」です。

令和６年能登半島地震では、伏見台校下でも一部液状化の影響が見られました。今後の災害に備えて、地域の防災力向上や住民同士の支え合い体制の強化が課題となっています。

そして、小学校の体育館と防災倉庫の間に屋根が設置されていない。雨や雪が降ったらものすごく物資の搬出がしにくいという問題点があり、それをどうにかできないか。先日も毛布などを出そうと思いましたら、やっぱりびしょぬれになってしまいました。人間だけじゃなく物を出す際も、雨や雪で汚れてしまうことがあるではないかと思っています。

そこで、地域防災力向上、液状化の対策、要支援者の支援、防災拠点整備に関する支援と連携について協議したいと思います。

避難所開設時における物資搬送の迅速化、安全確保及び備蓄品保護のため、体育館と防災倉庫を結ぶ屋根つき通路等を整備していただきたいと思います。

ここで付け加えて質問したいのですが、地域が費用を負担して屋根を設置することは可能かどうか。

もう一つは、もし設置できる場合、市や学校からどのような許可、手続が必要なのか。

最後に、今、私たちは屋根をつけていただきたいと要望していますが、もし屋根以外で積雪時、雨等で防災倉庫へ安全にアクセスできる方法があると市として推奨するもの、可能な方法がありましたら対策を教えていただけたらと思います。

地域としてはできるだけ協力したいと考えております。よろしくお願いいたします。

【南市民局長】

商店街と連携した地域の活性化について、少子・高齢化とかライフスタイルの変化によって様々な地域課題が生じているということは承知しています。

そうした中でも、伏見台商店街さん、伏見台校下町会連合会さんが大変頑張っておられるということは承知しています。課題に向き合って、地域のにぎわいとコミュニティの維持、深化に連携した取組を進めてこられており、改めて関係各位の熱意に敬意を表します。

本市では、地域コミュニティの活性化を図る先進的かつ自主的な取組に対して支援する助成制度があります。

その中でも「地域団体連携事業」というメニューがあり、校下町会連合会または単位町会が同じ校下内の、例えば商店街などの団体と連携して活性化に取り組む事業を対象としています。高齢者と若年層が交流できるイベントやワークショップの開催、商店街を活用した地域交流の場づくり、地域住民参加型の商店街活性化プロジェクトなど、地域のつながりを深めて商店街の活性化につながるような事業が例として挙げられます。

また、地域活動や町会活動などにおける担い手支援として、これはもう既にこちらでも活用されていると聞いていますが、学生団体を派遣する「学生の地域コミュニティ連携促進事業」もございます。具体的には、夏祭りや盆踊りなどのイベント、町会行事に学生ボランティアを派遣することで、運営の人手不足を補完しながら地域と学生の新たなつながりを創出するというものです。

このほか、こちらは経済局商工労働課のメニューになるんですけれども、商店街が実施する地域コミュニティ活性化イベントに対しても支援を行っております。伏見台商店街の皆様はもうおおむね毎年活用していただいていると伺っています。

今後も地域のにぎわいをつくり出して発展させていこうという取組に対して、市としても支援を行い、商店街や地域の活性化に向けてどのような協力ができるか、共に考えてまいりたいと思います。

【山下危機管理監】

まず、地域防災力の向上について、各地区校下の防災組織を中心とした防災士さんや地区の社会福祉協議会の方々、町会の方々、こういった団体の方々が一堂に集まって、災害について日頃から顔の見える関係をつくっていくということが大変重要だと思っています。地域の各種団体、住民の方の顔が見えないと災害時に動けませんので、これがまず大事だと思っています。

特に今年から、各地区で災害が起きたときどう動くかという地区防災計画を少し見直していただくために、能登半島地震のときに起きた避難所でのトラブルを踏まえたトレーニングができるよう、ＮＰＯ団体と協力をして、地域でワークショップを開くということを予定しています。既に伏見台校下さんは申込みをいただいたのではないかと思います。

実際にどういうことをするかというと、今まで体育館だけを避難所として想定してきた

と思うのですが、大規模災害だと体育館だけでは入りきらない。普通教室も含めてどこまで避難所として使うか。例えば高齢の方だとか障害のある方だとか、女性の着替えはどこでやったらいいか、細かいところまで、実際の図面を使いながらみんなで短い時間でどんどん決めていくというトレーニングを行う予定です。

みんなで話し合うことで、自分の地区の避難所というのはどういう運営をしていけばいいのかをイメージしながらトレーニングできると思っています。

また、各地区からは毎年大変多くのかがやき発信講座をお受けしています。防災は非常に幅が広いものですから、相談を受けたときには、市のメニューを持ち込むのではなく、どういったお話を聞きたいのかを伺って、それに市がお伝えしたいことも少し付けさせていただいて、できるだけ地域の課題をクリアできるような講座としています。

市職員や地区支部員の派遣、訓練等を行いたいときは、何なりと言っていただければ大変ありがたいと思います。

屋根の件、地元からお金を出してでもいいからどうにかしたいという大変ありがたいお言葉でございました。

現地に行って校長先生と打合せをしてきましたが、やはり学校管理上、なかなかここに屋根つきの渡り廊下をつけるのは難しいと言われています。

一方で、屋根は無理だけれども、屋根伝いで行ける中庭倉庫の一部にまだ余裕があるので、例えば毛布とか、初動のとき必要で濡れると困るようなものを移動していただいても構わない。一度中を見ていただいて、何を持っていくかを地区と検討してほしいという回答を得ています。全部は難しいですけれども、ある程度のものは動かせそうな、雨に濡れずとも運び出せる場所を学校でご用意していただいております。一度市の担当と地区の方と相談させていただければと思っています。

地域の防災力で、実はもう一つ大事なことがあります。それは家庭の防災力をどう上げるか。そのきっかけ、切り口は小学校、中学校のお子さんだと思っています。

現在、富樫小学校と高尾台中学校の先生が大変協力的で、今年も学校で防災教育を行っていただいています。それを、お子さんを通じて地域につないで、家庭の防災、できれば地区の防災訓練に出てほしいというお話をしていますので、地域の防災力を上げていくとなると、頑張っていただいているみなさんのサポートも重要ですが、一方で家庭の防災力、特に子供を中心とした家庭の防災力をどう上げていくかということに今年から特に力を入れています。そういったことを行いながら、引き続き地域の防災力の向上に努めていき

たいと思います。

【富樫校下町会連合会】

先ほど小学校の避難のことについてお話がありました。富樫校下で小学校を褒めていただき、ありがとうございます。

先日の大雨でも、避難所を開設する前に、未就学児と幼児の方を抱っこされたお母さんが不安になって避難されてきました。たまたまその日は小学校の校長先生が朝からいらっしゃったので、朝８時の段階で小学校の図書室を開けていただいたんですけど、その場合に、体育館はクーラーもないので蒸し暑く、防災士と小学校の校長先生で一応協議して、クーラーが入っている１年生の教室を開けていただきました。

この場合、例えば緊急時は、地域の防災士と小学校の校長先生の判断で教室を開けるという判断をしてもよろしいものか。

何年か前に、この教室とこの教室は駄目だけれども、この教室は使っていいよというような話を校長先生としたこともあります。そういった場合に、例えば緊急時に関しては、地域の防災士なり自主防災会の判断で動いてよろしいのかというのを質問したいです。

【山下危機管理監】

今回も教育委員会から体育館ではなくてクーラーの効いた部屋を開けるようにという指示が、早めに各学校に出ていました。その中で、地区の方のご相談があれば、場合によっては地区支部員から避難所を開けましょうという判断をさせていただいていたのではないかと思います。

教育委員会とそういう取り決めになっているということがございますので、緊急時も開けることになるだろうと思います。

もう１点ですが、昨年県の被害想定が出ましたが、その避難者の数を見ると、実は体育館だけでは収まりきらない地区というのがあります。金沢市としては学校を全て開放する。ただし、学校機関として絶対開けられない場所というのがあります。１つは職員室、もう１つは薬品等がある理科室、もう１つ、機械がある工作室。こういった絶対駄目な部屋は学校である程度定めて開けない。基本は体育館ですけど、それ以外は各部屋開けてよいということも、教育委員会と協議が終わっています。

体育館だけが避難所ではなくて、特に大規模地震のときは校舎全体をどう使っていく

か。ただ、どの部屋を皆さんがお使いになるか。規模的に全部開けると大変なので、地区防災計画を立てるときに、段階的にまずは体育館を開けて、次は１階のここまで開けてということを、できれば今後つくっていっていただきたい。それが実際に即した避難所運営になっていくだろうと思います。

今度、避難所をたたむときはその逆の順番でたたんでいきますので、まずは教室からできるだけ早めに閉めて、最後体育館をクローズする流れになると思います。開くだけではなくて、たたむ順番も含めて地区防災計画の中に入れていきたいと思っていますので、また何なりとご相談ください。

（追加質問・意見①）

【伏見台校下町会連合会】

商店街との連携について、商店街がイベントの助成金というのを申請されているということは我々も聞いているんですが、それと町会連合会の助成金との併用申請はできるのかということについて教えてください。

もう１つ、屋根つきの通路について、ほかの場所にある倉庫を使えるようにということで、あの中庭にある倉庫のことだろうなとは思っていますが、そこも屋根がないところに置いてあるので、それもどうなのかなというところは正直あります。

その話がまた進んできたら、ぜひ一度危機管理課の方と学校長、我々自主防の人間とで一緒に見に行きたいと思っておりますので、ぜひ声かけをお願いいたします。

先ほどの避難所の運営についてなんですが、おとどい伏見台小学校を避難所として開設した際に、開錠員の方が市から２名来られました。自主防としては行くのが少しだけ遅れたのですが、小学校に着いた時点でもう学校長と市の担当者で話をして、図書館が避難所となると整理されていました。

そういう中で、伏見台小学校は図書館が２階にあるので、足の悪い方とか、もし車椅子の方が来たらどうするんだっていうところが話をする前に決まっていたということがまず１つあります。

もう１つは、地区計画で決めたことについて、金沢市、そして教育委員会と一緒に共有するということが現段階ではできていないと思うんです。

なぜなら、今ほど言ったように、足の悪い方も来るかもしれないのにどうして２階を避難所にしたのかというところもそうですし、もう１つ駐車場の問題もありました。おとと

いは学校も全職員来られていて、小学校の駐車場はもう職員の方が車を停めていたので、実際に避難してきたらどうするんだという話もしたのですが、市から来ている方からはなかなかよい返事をいただけなかったというのが現状です。

避難所運営という中で、まずその市から派遣される方の位置づけ。市から来られる方をバックアップするのが自主防の役目、防災士の役目だということを聞いている中で、あまりにも開錠員の方の考えで避難所が運営されているというのが、おといについては非常に強く感じました。駐車場についても、そういうことを考えなくていいと言われたり、１階に避難所を移したいと言っても、学校長が協議しておきますと言いながらも、特に協議もしていなかったっていうこともありました。実際に避難所を開くときに、地域としてつくり上げた避難所マップをベースに学校、金沢市、地域と連携して、全く同じようにレイアウトできるようなことは本当に可能なのかというところを疑問に感じています。

今後の課題かもしれませんが、現段階の考えをお聞きしたいと思います。

【南市民局長】

補助事業の併用についてお話ししたいと思います。

今２つの補助事業のことを申し上げましたけれども、市民局で町会向けに行っているのは地域コミュニティ活性化事業です。

伏見台校下さんもよく利用されていらっしゃってご承知かもしれませんが、実は従来から行われている事業は対象にならないという条件がございます。ですので、今２つの補助事業があって、それぞれに活用するとなったときには、例えば、地域コミュニティ活性化事業を、事業に対して何か新たに改変を加えたようなものに活用していただく。商店街の事業は、従来の事業で活用する、という形での補助事業の併用という可能性はあるんじゃないかと思います。

地域コミュニティ活性化事業については、毎年応募をいただき、審査をして採択していますので、この時点で絶対採択されると約束はできないですけれども、もし運用方法などでご相談がありましたら、それぞれ商工労働課、市民協働推進課でお受けしますので、また何なりとご相談いただければと思います。

【山下危機管理監】

まず、学校の地区支部員の位置づけ。１番は施設管理者としての鍵開けと鍵閉めを責任

持って行う。ただし、市の職員の業務時間中は地元の方が先に着くことが多いので、自動解除キーボックスをつけて代わって開けてくださいというお願いをしています。

運営は、私は地域の方が中心となって、市の職員はそこと本部とつなぐ役目がありますので、基本は地域の方のルールが最優先されると思っています。

ただ、こういった雨のケースで、今の地区防災計画にどこを開けるかなどまだ決まってないことがあるときに、今回、市の職員が先に行って開けたのではないかと思います。

ですので、各地区の防災計画の後ろに避難所の図面をつけて、例えば水害だったらまずここから開けましょうとか、こういうことを決めていただいて共有したところがルールになってくるだろうと思っています。

今、どの地区の防災計画を見ても、皆さんの役割は書いてありますが、避難所のレイアウトが入っていなかったり、どこをどうするかというルール決めがされておらず、実際の動かしになってくると、これどうするんだということがいっぱいあると思っています。市としてはそれをなくしたい。ＮＰＯを交えながら、実際の避難所をベースに考えてほしいので、例えば今のようにやはり２階は無理だというご意見があるのであれば、そこは１階で適した場所はどこかということを決めていただいて、学校長とも一緒に協議する中でルール化していきたいと考えています。

お答えになっているかどうか分かりませんが、やはり市の職員は鍵の管理をしっかり行いながら本部との連絡を中心に行う。地域住民の方が多く集まってきますので、その方との運営についてどうルールづくりをしていくかということは、やっぱり日頃顔が見えている皆さんのほうが、市よりもスムーズに行えると思いますので、そういう運営になっていくだろうと思っています。

いずれにしても、ルールについてまだひな型から出ない部分が大きいので、そういったところを少しずつ詰めていきたいと思っています。ご協力をよろしくお願いいたします。

【富樫校下町会連合会】

この間の大雨のときに水没した病院とか大きなビルとかマンションとかは、一番大事な電源というのは地下にある。それが水没して、電気が開通しても水が上がらない、そんなことがありました。

それと同じようなことが実は富樫小学校にあるんです。体育館の床の高さ、垂直方向でグラウンドから50センチなんですよ。そこまで来なくても、体育館の下にピロティがあっ

て、そこに防災倉庫がある。そこに1000年に一度とか、この間の宝達志水や羽咋ぐらいの雨が降ったとしたら、絶対に水が入ってきてあっという間に水没します。どれだけ倉庫の中身を改善しようが、すぐ運び出して体育館に上げようとしたところで水に勝てない。

あの倉庫の設置というのは、最初からあそこということで決まっていたのか。せめて１階のどこかに上げてもらえないかと思います。

【山下危機管理監】

金沢市の防災計画のスタートは兵庫県で大きな地震があって、それを受けて金沢市も地震対策をしなければいけない。そういう中で、地域で防災倉庫をどうするかという流れだったので、水害を意識しておらず、まずは堅固な建物の下で、物資が置ける場所を最優先したのだろうと思います。

ただ近年を考えると、地震も怖いですが、水害がほぼ毎年どこかで起こっていますので、やはり水害を意識しないということはできなくなってきていると思います。

金沢市でも防災倉庫の中で浸水区域にあるものはできるだけ早く移動していこうと考えていますが、学校内施設となるとどうしても学校との協議があり、すぐには動かせていないのが事実です。富樫小学校の地下の部分については、既に水害において障害になり得る、実際に物が取り出せなくなるだろうということで、早く動かすもののグループの中に入っていて、今、学校とどこで動かせるか協議させていただいているところです。

設置の基準というのは地震をベースに置いたもので、最近は雨のときに出す頻度が上がってきていますので、これから水害も意識して防災倉庫の位置づけを変えていく必要があると考えています。その点について、先般改定した地域防災計画第2次改定においても倉庫の移設ということが明記されていますので、協議が整い次第、地域の方にご案内をして、場所を移動させていただきたいと考えています。

【村山市長】

防災に関して非常に熱心なご議論をいただき、特に先般の水害避難の状況もありましたので、そこを踏まえての話ということもありました。

地区支部要員については、通常の業務がありながらそちらに行ってもらっているというところはあって、避難所の開設の中でついやる気を出してしまうというところもある。もちろんいいことなんですけれども、それがいろんな形に触れることもあると思いますし、

通常と違う災害時ですので、それぞれの思いも出てきてしまうのだと思います。ふだんから訓練をしっかり行って、地元主体で動けるようにと思っています。

商店街と町連との連携については、特に伏見台商店街は、市域はまたぎますけれども、大学の城下町というようにも捉られると思っていますので、特に大学との連携。工大さんは学生をどんどんまちなかに出していこう、あるいは地域で経験させようという気持ちの強い大学でもあるので、そんな機会もこれからあり得ると思います。

先生方もたくさん商店街の中で飲食しているんじゃないかと思いますので、機会を捉えて、そのような関係者だと思ったら積極的にお話していただいたりしながら、我々としてもそうしたつなぎができればと思っています。

（4）共通課題について

伏見川及び泉用水をはじめとする地域の農業用水の維持管理と安全対策について

「地域の課題の説明」、「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【伏見台校下町会連合会】

一昨日の大雨時には、４校下を流れる伏見川氾濫危険水位を超え、避難指示が発令されました。

もとより、災害というのは予想できないこともあるのですが、日々の管理という中で、伏見川も含め泉用水、また地域の農業用水について、最近ですと近年草木の繁茂や土砂の堆積が見られることから、景観や排水機能への影響が懸念されています。

地域住民による清掃活動も行っていますが、重い石とか大きい草木になると、なかなか維持管理が難しくなってきているというのも現状です。

さらに、用水沿いに転落の危険がある箇所とか、大雨時に氾濫する不安もあることから、安全対策の強化をぜひお願いしたいと思います。

加えて、河川や用水についての管理主体、石川県と金沢市とが調整するのになかなか時間を要しているというケースもありますので、こちらの整備や維持管理に関する調整について、関係機関との連携強化が必要となっていると思われます。

こちらとしまして、金沢市、石川県及び地域が連携し、計画的な維持管理や安全対策を推進してほしい。

また、地域からの要望に対する情報共有、また協議体制の充実を図るため協議したいという中で５つ書いております。こちらについては、時間のこともあり説明を割愛させていただきます。

また、８月上旬に、富樫校下町会連合会さんが県央土木さんと現場確認という形で、伏見川の維持管理のことについてお話をしていただいております。我々伏見台校下も流れていることもあり、近隣の町会の町会長ともお話をした上で、県央土木からは伏見川について今後このように維持管理させていただくということは聞いております。もしかしたら局長さんも聞いているかもしれませんが、併せて共通課題とさせていただきますので、市のお話はまたよろしくお願いいたします。

【木谷土木局長】

泉用水から増泉川を経由して伏見川に流れるこの区間、中心市街地を流れておりまして、生活環境や景観の形成、そして寺町台、泉野台からの水も大雨時には一気にこの地区に流れてきます。そういった意味でも、治水上重要な役割を果たしていると市も石川県も認識しています。

先般、伏見川の河川管理者である県央土木事務所に確認したところ、今大変草が生えていますし土がたまっていますが、河川断面を確保するために土砂の撤去、雑木の伐採、この重要性は認識していると聞いています。今、緊急性の高いところから、予算を組んで順に対応しているところという返事をいただいており、今後も継続的に取り組んでいくということも県央土木から聞いています。

本市においても、まず４月に県央土木事務所と金沢市の土木局が顔見せをして、お互い顔の見える関係で、必ず連携が取れるように現場を担う者として情報共有をしています。

パトロールで用水内の除草や伐採、浚渫（土砂の上げ）が必要である場合は遅滞なく対応していますが、金沢市全域から要望を受けており、どうしても遅れるケースもあります。地域の方にはこれまで協力していただいているのですが、高齢化もあってもうできなくなった、体が動かん、若い者はやってくれんというようなご相談には、念入りに対応していきたいと考えています。今後とも維持管理に積極的に予算も含めて取り組んでいきたいと思います。

昨年度の大雨で水路を越え越水したところの安全対策について、そもそも断面が足りない、土砂がたまっている、ごみが詰まった、いろんなケースがあります。住民の皆様が安

心して暮らせるまちづくりのため、現地を確認して、周辺の方にも状況を確認させていただく浸水対策調査を順次行っています。

問題が分かったところから順に対応していきますが、昨今の雨は千葉でも羽咋でも50ミリを楽に超える数値が出ております。まちのインフラの施設はほぼ50ミリ前後の対応となっており、それを超えたものはどうしてもあふれてくる。そのため、土のうスポットを配備したり、仮設ポンプを配備したり、いろいろ対策はとっていますが、とにかく皆さんの命を守る行動をということでお願いをしております。

石川県との情報共有につきましては、先ほどもお話ししたとおり一生懸命やっております。今日もまだレベル２が出ていますが、水曜日から雨が降りまして、水、木、金、土、今日が土曜日ですけど、多分日曜日まで注意報が切れないということで、県央土木事務所も市も24時間職員がおり、互いに情報共有しております。

災害には万全に備えてまいりたいと考えておりますので、皆様のご協力とご理解のほどよろしくお願いいたします。

【富樫校下町会連合会】

ちょうど伏見川が話題になったので、主に防災面の意見を申し上げたい。

最近は全国各地で災害が頻発していますけれども、おとどい大雨が降り、富樫校下でも午前中に土砂災害警報と伏見川の避難指示が出ました。結果的に氾濫危険水位までにはならず、注意を超えたぐらいで大事には至らなかったんですけれども、我々も富樫小学校に避難所を設けて、防災士が主体で午後の閉所までお手伝いをさせていただきました。

ソフトの話が多かったのですが、ハード面の話でいうと、伏見川は窪大橋から上流が市管理、窪大橋から下流が県管理で、連携が云々というお話があったと思います。下流のほうについては、本当にすごい土砂が堆積して草木が繁茂している状況でした。

今月の初め、我々町連も全部を歩いて見て、その後すぐに県央土木の課長さんなどと一緒に現場を見て、どうしようかと。結局、土砂の堆積や草木については横によけて、真ん中に３ｍほどの水面が見えて、あとは草が覆っているという状況。全部掘削すると今度は護岸が倒れてしまうので、あまり底まで掘ることができず、今は横に押しよけている感じ。これが治水上、安全性が確保できないようであればすぐに対応してほしいという話をしていたんですが、現段階では治水上まだ支障に至るまではならないだろうと。だから、米泉など下流の河床掘削を進めたいというお話でした。

ただ、数年ごとに現場を見て掘削を行うということで、左岸が伏見台、右岸が富樫になるんですけれども、そこについては来年再来年か、様子を見て対応したい。草木については、つるが桜の木や民地まで入ってきているので、支障があるところについては秋にすぐ対応したい。凹凸になっているところについても、危険な箇所は来年度予算をつけて掘削するという回答をいただきました。

県はそういうことですが、市管理の上流区間については、30年ほど前に、急流河川ですからどんどん護岸がくじられて、団地のアパートが崩れたり、横の道が丸々崩落したりしたものですから、これはもうぜひ本格改修していただかないとということで、10年ほど前に川幅を広げて、窪大橋から上流まで改修していただきました。おかげさまで治水安全度がものすごくアップして、草も生えていますけれども、下流ほどでもなく、安全性が確保できたと思っています。

ただ、改修したその上が、今度はのり面が崩落したり、少し山手へ行くと護岸が崩れてその脇の農道が全部崩落したり。急流河川なので、そういうところがまだまだあります。

市管理の区間から県管理のところへ来る箇所も結構狭いところがありますし、草も生えてるところもあるので、今後しっかり対応をお願いしたいと思います。

それから、その上流に国の天然記念物の大桑層と、甌穴（おうけつ）といって川底が丸くなる部分もあるのですが、保全も厳しくなってきていますし、逆にこういうルートの活用なども含めてお願いしたい。

この上流区間については、沿線に住宅地が張りついています。住宅地や下流の安全性確保のために、ハードの整備、維持管理について、しっかり対応をお願いしたいと思います。

【木谷土木局長】

窪大橋から上流については市管理の区間。急流区間で、先ほどお話のあった大桑層の非常に勉強になるものもありますし、昨今の雨で崩れていたり、災害対応で今調査に当たっているところもあります。

護岸とのり面の急流部分の維持管理、そしてすぐ迅速な災害対応で復旧工事、これは我々もパトロールをしています。護岸ですので、雨が降ったすぐ後ではなくて、しばらく経ってから崩れることもあります。皆様方もいつもと違う、崩れている、お気づきの点がありましたら、河川水防課にご連絡いただければ、すぐ現場パトロールと確認を行います。

窪大橋から下流部につきましては県管理区間です。断面確保、そして維持管理、それか

ら草が生えて道端に出ているところや、防護柵の古くなったところもあります。維持管理について努めるよう、市もしっかりと県に強く要望してまいります。

(5) 質疑応答、意見交換

【富樫校下町会連合会】

３年前にまちづくりミーティングに参加させていただいた際、能登半島地震の直前でしたが、「拠点避難所で下水管トイレ、マンホールトイレの設置はございませんでしょうか」と質問をしました。５月29日に市役所職員の防災訓練で自主防災組織と防災士として参加した際に、工事関係者が調査に来たという話を聞きました。建設工業新聞等でもそういう話が出ていたというお話を聞きましたので、富樫小学校にマンホールトイレ、下水管トイレの設置の予定があるかというのを１点お聞きしたい。

あともう１点、金沢市災害協力井戸について。金沢市は111か所災害井戸というのがありますが、南部ブロックは少ない。今後掘るのは厳しくなるとは思いますが、増やしていく予定があるか質問させてください。

【山下危機管理監】

まず、マンホールトイレについては計画的に整備しておりますので、必要なところには設置をしていく予定です。

災害時協力井戸は、既存の井戸を登録し、災害時に協力してほしいという井戸になります。もし当該エリアの中に井戸があれば増える可能性はありますが、協力井戸のために掘ることは行っておりませんので、ご理解いただければと思います。

【富樫校下町会連合会】

冒頭、金沢方式についてはすばらしいところいっぱいあるとおっしゃいました。私もそう思います。

ただ、１点確認しておきたいのですが、そのいい悪いというのを決めるのは誰かということ。それは町連でもなく市役所でもなく、金沢市民だということを申し上げたい。

何が言いたいかというと、正確な情報をきちんと市民に提供しなくてはいけないと思っています。なぜこんなことを言うかというと、市長の英断によってあり方検討懇話会が開かれ、年４回討論されて、このような報告書が市長に出されました。これをベースに「金

沢のコミュニティ」という全戸配布のすばらしいパンフレットができました。地域主導、ボランティア、地元負担という３つの柱が書かれているのですが、肝心なことがこの中に一つ抜けてるような気がするんです。

それは何かというと、富樫校下でも今公民館の建て替えで議論がなされている経緯があるんですけれども、地域からのいわゆる地元負担金として集められたお金は、住民からの自発的な寄附金として市に歳入されている。これ住民にとっては大事な情報なんです。

ここで要望です。金沢方式を支えている地元負担金は寄附金であって強制ではないという情報を、このパンフレットに書いておいていただきたい。できればパンフレットだけではなく、きちんとアナウンスをしていただきたい。僕も町会役員をしておりましたけれども、これによって町会の分断が起きたり、とても困ったことが起きたりしているわけです。

ですから、繰り返しになりますが、こういう情報をきちんと提供した上で、その是非を金沢方式、あるいは変えていくというようなことを市民に委ねてほしい、そういう要望でございます。

【司会】

金沢方式で地元負担をお願いするような部分は、公民館とか消防分団の倉庫とか、一部児童福祉施設のハード面の施設の整備になりますけれども、大変申し訳ありませんが、本日その所管部局が来ておりません。情報の開示や説明の仕方はこれまでも尽くしているとは思いますけれども、そういったことを徹底させるように所管の部局に今のご要望をお伝えします。

（6）市長まとめ

【村山市長】

長時間にわたり様々なお話をいただきありがとうございました。

特に今回は、防災の関係が非常に注目されました。市職員の地区支部要員の派遣というところも話題になりました。全員が同じように動けるわけではない中、いろいろな対応になると思いますけれども、一つ一つの災害、あるいは避難の対応などを含めて、その検証もしていきたいと思っております。

そして、様々な種類の災害対応がある中での今回の水害、あるいは避難だったと思います。そうしたことも一つの教訓にしていきたいですし、地区支部要員間での情報共有もで

きればと思っております。

本当に多岐にわたるご意見をいただきましたので、次の施策の検討に生かしていければと思います。

各地区でそれぞれの動きが今あります。米泉地区では泉野々市線、あるいは伏見台では高尾城跡の指定の話、そして三馬、富樫でも併せて教育福祉施設の建て替え、こども未来拠点施設の整備といったところもあります。工事についてはご迷惑をおかけするところもあると思いますが、将来の地域のためにご協力を賜りますようお願いを申し上げます。